

＝創造と破壊＝

1 破壊と再生のサイクルが必要な理由

1.1 人間によって作られた組織 ⇒硬直化、私物化、特権階級 ⇒機能不全

古い皮袋のたとえ ルカ 5:37-39

新しいぶどう酒：醗酵に伴いかさが増す。新しい皮袋：柔軟性があり、伸びる。

古い皮袋：乾燥し、柔軟性がない。

1.2 人（社会）の要求による。

1 サムエル 8:4-22 士師から王政へ

2 創造と破壊の過程：新旧の対立。

2.1 イエスとユダヤ人（律法学者、パリサイ派）の対立

2.2 ステパノの死 ⇒ 世界に福音が広がるターニングポイント

使 6:1-6 給食係に選ばれる。

使 6:7 イエスの教えが急速に広まった頃、散らされる。⇒神のタイミング。

使 6:8- ステパノの殉教 ⇒更なる迫害で散らされる（使 8:1）。エルサレム以外に福音が広がる（使 8:4）。

2.3 パウロの迫害 使徒 8:1、3

ステパノの殉教に立会い、衝撃を受ける？⇒ 迫害の激化、ステパノについても言及：使 22:20

ステパノ殉教の強烈な目撃、激しい迫害 ⇒心は暗かった ⇒ダマスコでのイエスとの出会い。使 9:3-

3. 最も重要なことは、その背後にある神の御手

3.1 すべてが新しいいのちの拡大のために用いられる。⇒しっかりした組織ができ始めたら、その拡大のために散らされる。

3.2 神の御手ではなく、人によって作られたものは必ず滅びる。

3.3 動きの背後にある神の御手を感じ取ること。新しい創造が神のいのちの路線に乗っているのなら、どのように激しい抵抗があったとしても、その抵抗でさえ新しい創造の拡大に利用される。